

パネルディスカッション (発言議事要約)

テーマ『これからの浦添の風景づくり ～市民・行政・専門家の役割～』



○ パネラー 比嘉 有海(NPO法人まちづくりてだこ市民会議 事務局長) — 市民活動実践者の立場からの発言 —

私たちは、約10年前から川の浄化活動を主にやっております。全般的なまちづくりとして、特にグスクを中心とした歴史文化を活かしたまちづくり、環境問題、青少年の育成、夢と希望をもたすロマンあふれるまちづくり活動を行っております。

その中で、当然これからグスクが復元され、世界遺産に登録されるであろうということを見据え、その眼下に流れている牧港川を蘇らせ、しかも、近々モノレールも来るということでございますので、観光客が来ても非常に楽しめる地域・風景というものをつくっていきたくて活動しております。そして緑を残す、緑の景観を残していくということが私たちに課されている問題じゃないかなと思っています。これにはやはり行政の力も必要だし、市民の力も活用していかないとはいけません。みんなが意識をもって緑を残していき、特に牧港川上流のほうには、地下浸透による緑の保全や植樹を行うことが必要だと思っています。

また、グスクに隣接する当山地区の開発が進み、緑が減少していくのではと危惧しておりますので、この問題にも真剣に取り組んでいく必要があると考えます。

今後とも、牧港川に清流を取り戻すこと、この浦添の眼下にある緑のバッファゾーンをいかに保全し有効活用していくことを継続したいと思っています。



○ パネラー 友寄 孝(社団法人 沖縄建設弘済会 技術環境研究所 技術環境部部長代理) — 専門家としての立場から発言 —

まちをつくるのは人とのつながりが非常に大切です。例えば、外の人達と生活を遮断しているような建物、街区道路に通過交通が流れ込むことで子供たちが家に閉じこもり、隣近所のコミュニティをできにくくしている状況。また、公園についても隣近所が集まってきて話をしたりする雰囲気のある公園が少ないわけです。

このような問題に対し、市民が「こんな道じゃないんだ」とか「やっぱり通過交通は制限してくれ」などの声を挙げてくることによって、みんなでまちづくりを行う雰囲気が出来る、それが必要ではないかなと思います。

国際通りは、毎日曜日トランジットモールを行っていますが、ここですごいのが通り会が一生懸命やっている。いわゆるお役所が押しつけてつくったトランジットモールではないわけです。国際通り振興組合連合会や他の通り会も含めて、みんなで一緒に取り組むことで人のいる風景ができてくる。道路はなにも車のためではないといったまちづくりができてくる。

浦添市も役所前・県道38号線の拡幅計画がある中で、LRT(路面電車)を通すようなことも将来考えたらどうか。そして市民が植樹をみんなで一緒にやっていこうとか、みんなで設計にかかわっていこうとか、こういう形でこの道づくりや周辺の景観・風景をつくっていくことに取り組んで貰えないかと考えます。

このように皆さんの関わりにより、必ず人がいる空間が出来るのではないかと考えております。

夢を持って浦添のまちづくりをする。この浦添にはメイン通りと言えるものがないので、ぜひつくって頂きたいと思っています。



○ パネラー 木下 能里子(株式会社 国建 地域計画プロジェクト・マネージャー) — 専門家としての立場から発言 —

景観(色彩)のルールは、皆さんが「美しいと思えるものも何なのか」、「どんな風景だったらみんな目指せるのか」、そして「実際に実現できるのか」、このような共通認識を確認していく作業がルールをつくるということだと思っています。

みんなが美しいと思える色は何なのか、歴史・文化の中での色に関しては、工芸の色だとか、祭りの色、建築様式の昔ながらの赤瓦や木造色など、沖縄の色の特徴があります。

それから、歴史だけではなく、自然の中にみんなの美意識の元になったもので、建造物の素材の色になってきた土や石の色、背景となる自然の色、海や空や植物の色、こういうものも実際に考えてみますと、沖縄の非常に特徴的なものでもあります。

那覇市では、建物の色彩(基調色)で多く使われているのがベージュだとか白などの色になります。

また、県内のある塗料店でどんな色の塗料が売られているのかヒアリングした結果、非常に白が多い、そのほかの色としてベージュなどの色に集中していることで、このような色が好まれていることがわかりました。

そして、建物の色彩ルールをつくる際に、このような調査を経た上で、コーラルホワイト色を基調色(一番大きな面積で使われる色)にしてはどうかということで、現在、那覇市でそのルールを試行している状況です。

ルールというのは、みんなの中に潜在的にあるものをどういうふうに掘り起こすか。みんなが協力できるのは何かということ掘り起こしていくことで、それぞれの地域の個性が出せるといいますし、その中で浦添はどんな色が合うのかということを探っていくことができると思います。また、色に限らず景観全般においても、このような形で掘り起こし方があるのではないかと考えております。



○ パネラー 銘苅 秀盛(浦添市都市建設部長) — 行政の立場から発言 —

浦添市の景観、それから浦添市のまちづくり全体を考えると、避けては通れない歴史がございます。皆さんご承知かと思いますが、いわゆる浦添グスクを中心として12世紀から14世紀、220年間琉球国の政治・経済・文化の中心地として栄えたという立派な歴史が存在する。これが市民の誇り・自信となっており、それを景観まちづくりに生かしていかないとはいけません。

浦添ようどれば、第1期のグスク整備が終え、第2期整備に入っており、また、首里城から浦添グスクにかけての歴史の道の整備も行われてます。心の景観として浦添グスクの復元というものが、浦添市のまちづくりのすべてを象徴していると思います。

また、景観行政を進めていく上で財政力や社会資本整備についても、景観を進めていく上で非常に重要な要素だと考えております。

なお、社会資本整備につきましては、臨港道路浦添線が平成26年度までに完成予定であり、沖縄西海岸道路(浦添北道路)は平成20年代後半の供用開始予定、港川道路は平成25年の予定をもって現在事業が展開されている状況です。

そして、モノレール延長計画や県道38号線については4車線拡幅の都市計画の変更を次年度を行う予定となっております。

今後は、モノレール延長整備に伴う終点駅(浦西駅)周辺の駅前広場、パーク・アンド・ライドなど、これからの課題として、その一帯の市街化調整区域、未利用地になっている部分の土地利用などがあり、これらを視点としたまちづくりをどのように行っていくかが非常に重要となって参ります。



○ コメンテーター 篠原 修(政策研究大学院大学教授)

昔は、景観の話というとか役所がお金つけてという感じでしたが、この頃は市民の方が随分熱心に活動して、そして、何よりも変わったのはこんな不景気なときにもかかわらず、やっぱりまちづくりとか景観は重要だよと地道にやられているわけで、やはり本物になってきたなと思います。景気に左右される問題ではないのだと思います。

今日、浦添のグスクの整備状況や復元した石橋2カ所を見せていただきました。グスクもだんだん復元されてきて、新交通も来るとお客さんも増える。これは誠にいいことだと思います。

僕はいろいろなところで仕事を手伝っていますが、観光で来る人のために一生懸命やったということはないのです。いつも市民の人が楽しく暮らせるようにやる。その結果、来る人が増えればそれはそれでいいと思うのです。

このあいだ、パリに久しぶりに行きましたが、そこは楽しくて散歩ができる。まちもおもしろく歴史もある。僕は市民が楽しく散歩できる場所がどのくらいあるかが、その都市のよさのバロメーターだと思っているのです。だから、ぜひ浦添市も頑張っしてほしいと考えております。また、水辺というのは非常に重要だと思います。水を整備するとまちが変わると思います。これもぜひ頑張ってもらいたい、グスクを散歩するのにすごくいいなと思っているのです。

そういう意味で、観光も勿論沖縄全体としては重要ですが、やっぱり市民が楽しく暮らせて、ここで生まれ育ってよかったなというまちがいい。そういうふうなまちになる可能性が浦添は非常に高い。あまり目線を観光と言わないで、浦添に住んでいるとすごく楽しいというのがいいと思うので、そういうふうにやってくれるとありがたいなと思います。

そして、まちづくりで大切なのがデザインする人間、そして担当の人がやる気がないと絶対だめです。市民がいくら言っても、設計する人がいくら頑張っても、担当する人にやる気がなければだめなのです。



○ コーディネーター 池田 孝之(琉球大学工学部教授)

私のほうで簡単にキーワードだけのまとめをさせていただきます。

一番重要なのは浦添の特徴も含めて自然を守る。特に水辺、緑ですね。水はもちろん海、川ですね。ここをしっかりと守ってそれと調和していくこと。これはもう原則であります。そのためにいろいろなことを考える。

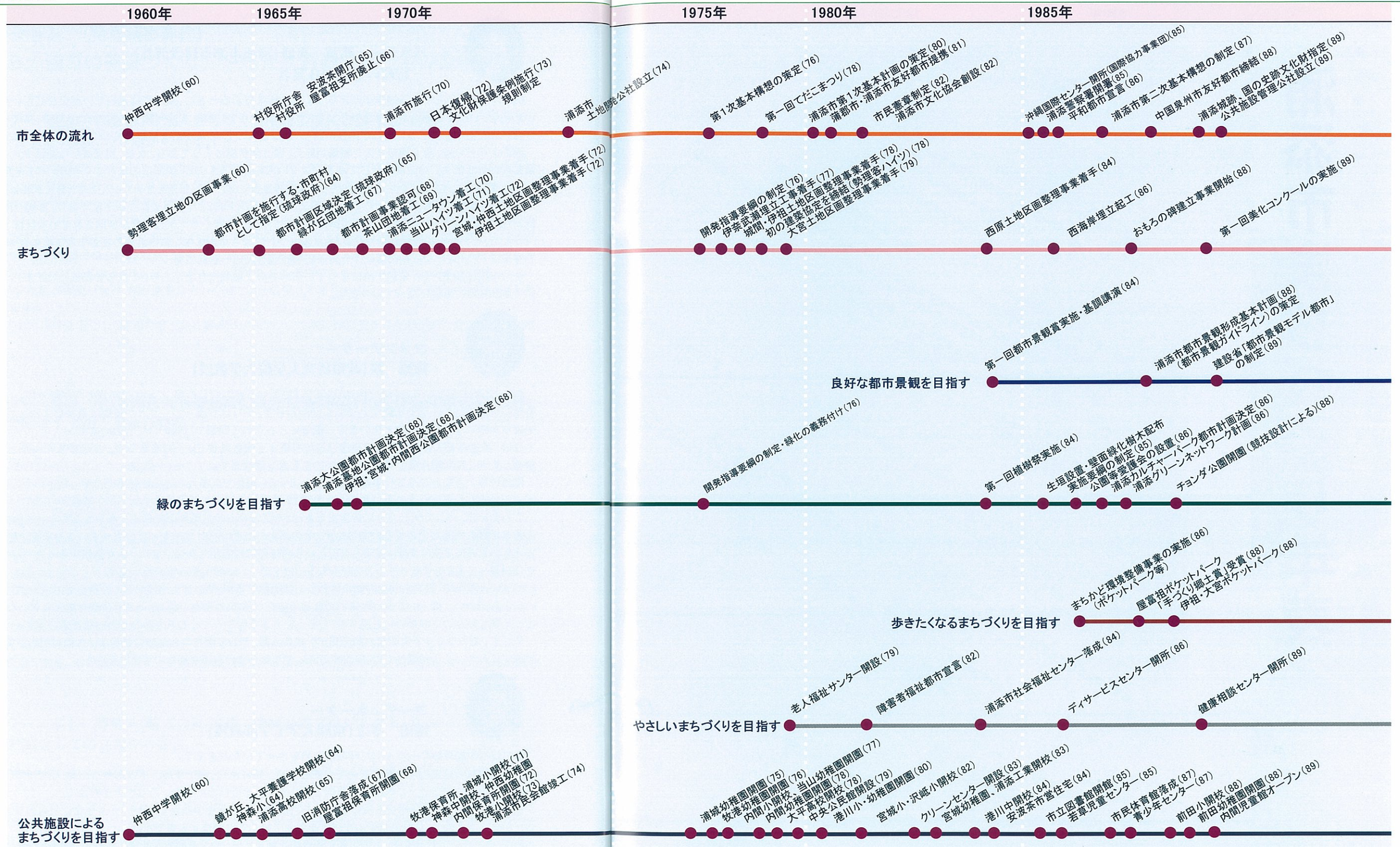
それから、もう1つは歴史を受け継ぐ。これは浦添グスクを中心としてということもありました。この2つは大きなベシックですので、これで景観のすべてを考えていくことがまず大事です。

ただ、それだけではなくて、さらに新しい景観を創造する。つくる部分も非常に重要で、浦添市の場合はモノレールであったり、西海岸臨港道路などや区画整理の動きもあります。こういったものだけではありませんが、そういうものも含めながら新しい景観をつくっていくことを考えていくべきではないかと。これは3番目です。

4番目は、議論の中で割と集中した観光とまちづくりの話です。観光と景観は決して両立しないものではなく、大変重要ではあるのですが、ただ観光のためにという大前提ではなく、これはやはり市民にとって気持ちのいい快適なまちをつくっていく。ここが一番の原点であって、それが誇りであったり、アイデンティティーであったり、生きがいであったり、それを自分たちで議論してつくり上げていく。ここが、だれから見ても魅力があるまちになって観光につながるのだと思います。

最後は、やはり人づくりにつながるのかなということ。いい景観をつくるには、いいデザイナーを得ることも大事だと。パリやいろいろなところでやっているコンペとか競争でしっかり議論を戦わせるということも必要かもしれません。それから、行政担当者の中に熱意のある人、頑張った人を表彰する仕組みも含めて行っていく、あるいは、地域の中でいろいろとまとめ役をするリーダーを育てていくことが大変重要なのではないかとということで締めくくらせていただきます。

浦添市まちづくり年表



宮城公園のホルト並木



市立図書館



仲西ガジュマル広場



宮城小学校前の歩行者専用道路



市民会館前広場



カルチャーパーク・美術館

1990年

- 市政施行20周年(90)
- 浦添商工会議所開所(91)
- 第一回浦添市産業まつり(91)
- 1%文化事業の設定(90)
- 北経塚地区区画整理組合設立(90)
- 浦添南第一土地区画整理事業着手(92)
- 国道58号線沿線牧港地区地区計画(94)
- 北経塚地区地区計画(94)
- 史跡浦添城跡整備基本計画(96)
- 歴史の道整備基本計画(97)
- 浦添南第二土地区画整理事業着手(97)
- 都市マスタープラン策定(99)
- 地区景観ガイドプランの作成(90)
- 公共施設サイン計画の作成(91)
- 仲間集落環境等基礎調査報告書の作成(93)
- サンパーク地区景観形成地区別計画の作成(93)
- 浦添市都市景観条例(仮称)に盛り込めば基本的内容の答申(景観委員会から市長へ)(94)
- 浦添市の都市景観(94)
- 仲西中ガジュマル広場「第1回緑のデザイン賞」受賞(90)
- 泉小公園開園(競技設計による)(91)
- うがみやま公園開園(競技設計)(94)
- 浦城小市民開放広場「第9回緑のデザイン」受賞(98)
- 緑の基本計画基礎調査(98)
- 神森・神森沿線ポケットパーク(90)
- 城間・バイパス沿線ポケットパーク(91)
- 市道3号線「手づくり郷土賞」受賞(91)
- 浦西中ポケットパーク(91)
- カルチャーロードパーク(91)
- 大平バス停パーク「手づくり郷土賞」受賞(93)
- 学園通りポケットパーク、伊相ロードパーク、ウラソエポケットパーク牧港1.2(県道)(93)
- 仲西小前コミュニティ道路(97)
- 浦添市福祉環境整備要綱(90)
- 福祉プラザ開所(93)
- てだこ・福祉プラン21(94)
- (地域福祉計画)
- 浦添美術館オープン(90)
- 浦西中、西原児童センター(92)
- ハートモニタリングセンター開所(93)
- 消防庁舎開所(93)
- 内間市営住宅立替え着工(95)
- 浦添市民球場(96)
- 市庁舎行政棟落成(97)
- 浦城小改築(97)
- 市庁舎議会議場落成(99)

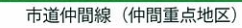
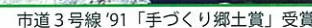
1995年

2000年

- ヤクルトスワローズキャンペーン(00)
- 第三次浦添市総合計画(01)
- 那覇港管理組合設立(02)
- てだこオーク(02)
- 浦西地区地区計画(01)
- 花と緑と水を配したまちづくり計画作成(03)
- 浦添市都市マスタープランの見直し(04)
- 景観行政団体(06)
- 浦添南第一地区地区計画(06)
- 仲間重点地区地区の指定(08)
- 那覇港浦添ふ頭地区公有水面埋立事業着手(08)
- 仲間地区まちづくり塾スタート(01)
- 浦添市景観形成モデル地区詳細調査(仲間地区)(01)
- 仲間地区まちづくり調査報告書作成(03)
- 浦添市まちづくり市民会議発足(06)
- 景観まちづくり条例の施行(07)
- ウラボシエ回廊都市再生整備計画決定(07)
- 景観まちづくりフォーラムinうらそえ2007(07)
- 景観まちづくり条例(届出実施)(08)
- 仲間重点地区地区の条例追加(08)
- 浦添市景観まちづくり推進基礎調査(09)
- 風景づくり推進フォーラムinうらそえ2009(09)
- 浦添市景観まちづくり計画・条例景観形成基準の解説(10)
- (仲間重点地区)
- ティアダヌファー緑計画の作成(00)
- 花と緑のまちづくりフェスタ(01)
- まちかど環境整備事業(00)
- 玉城朝薫墓の復元完成(05)
- 浦添ようどれの復元完成(05)
- ようどれ館会館(05)
- 歴史のみち・中頭方西街道誘導サイン・文化財案内版設置(07)
- 仲間線整備(08)
- 仲間地区情報板等整備(08)
- (まちづくり交付金)
- 仲間樋川及び周辺整備(09)
- (まちづくり交付金)
- メディカル・インフォメーションセンター開所(02)
- 市温水まじゅらんらんどオープン(04)
- 宮城ヶ原児童センター・宮城ヶ原保育所落成(02)
- 排ガス高度処理塔落成(03)
- 港川共同調理場落成(03)
- まちなど児童センター開所(03)
- 浦城っ子児童センター落成(04)
- 浦添市民相撲場落成(04)
- かりゆしセンター落成(05)
- 神森幼稚園・森の子児童センター複合施設完成(06)
- ひまわり学童落成(06)
- うらそえぐすく児童センター落成(07)
- 市でたこホール(大ホール)供用開始(07)
- 宮城っ子児童センター(小ホール)供用開始(08)
- 市でたこホール(小ホール)供用開始(08)
- 前田ユフジが丘児童センター(09)

2005年

2010年





浦添市 都市建設部 美らまち推進課

〒901-2051 沖縄県浦添市安波茶1丁目1番地1号 TEL : 098-876-1234 (4064)